

R5の主な成果と課題

1 スポーツ参加の拡大

主な指標	R9目標	設定当初(R4)	R5目標	R5実績	達成度
成人の週1回以上のスポーツ実施率	65%	51%	-	-	-
運動が好きな子どもの割合	R4から5ポイント増	小男92.1% 小女85.9% 中男89.5% 中女79.1%	R4から1ポイント増	小男93.2% 小女89.3% 中男86.3% 中女77.4%	小男:S 小女:S 中男:D 中女:D
障害者が活動できるチームや団体数	37	27	29	29	A

- 主な成果・課題
- 運動が好きな子どもの割合は小学生の数値は向上しているが、中学生の割合が伸びていない
 - 身近な地域で子ども達がスポーツを続けられる環境が限定されている（資料3-2「補足」参照）
 - 有資格指導者は増加傾向にあるが、ボランティアを含めスポーツ活動を支える人材のさらなる発掘・育成が必要（資料3-2指標⑫⑬参照）
 - 障害者が活動できる環境は少しずつ増えているが、まだ十分ではなく、活動できる環境をさらに広げていくことが必要（資料3-2指標⑮⑯及び「補足」参照）

2 競技力の向上

主な指標	R9目標	設定当初(R4)	R5目標	R5実績	達成度
全国入賞や国際大会へ出場する選手・団体	160	138	142	188	S
全国や世界を目指す障害者アスリート数	220人	192人	198人	206人	A

- 主な成果・課題
- 全国や世界で活躍する選手は育てきている
 - 国民スポーツ大会の順位が着実に向上している（資料3-2「補足」参照）
 - 入賞等の結果を残す競技がまだ限定的であり、全体的な底上げを引き続き行うことが必要（資料3-2指標⑳㉑参照）
 - 有望な選手等の県外流出が見られるが、県内への受け入れを支援する仕組みがない
 - 全国や世界を目指す障害者アスリートは増加しているが、さらなる増加や活動の充実を図るためには、支援する体制の強化が必要

3 スポーツを通じた活力ある県づくり

主な指標	R9目標	設定当初(R4)	R5目標	R5実績	達成度
スポーツによる県外からの入込客数	12万人	53,161人	63,000人	86,094人	S

- 主な成果・課題
- コロナ禍において大幅に減少していた県外からの入込客数は、回復傾向にあり、R5の目標を大幅に上回り増加した
 - インバウンド需要が拡大するなか、サイクリングなど本県の自然を活かしたスポーツツーリズムの推進に向けた戦略的な取組が必要
 - 全国でマラソン大会が増加、他方でコロナ禍以前に比べマラソン人口が減少するなか、高知龍馬マラソンの参加者の確保、収支の安定、持続可能性の担保が必要

R6の強化ポイント

- ①子どものスポーツ環境づくり**
 - ・子どもが身近な地域でスポーツに出会う場や続けられる環境づくりなどの取組を支援
 - ②障害者がスポーツに親しめる環境づくり**
 - ・障害者のスポーツ活動の受け皿づくり
 - ・インクルーシブなスポーツ活動の推進
 - ③スポーツ指導者の育成・マッチング**
 - ・指導者の掘り起こし・育成(多様な学ぶ機会の提供)
 - ・ニーズに応じたマッチングの実施
 - ④アスリート・指導者のキャリア支援**
 - ・アスリートや指導者を県内企業等に受け入れる仕組みづくり及びマッチング
 - ⑦スポーツにおけるデジタル技術の活用**
 - ・リモートを活用したダンスレッスン
 - ・各種スポーツ大会の動画配信及び分析
 - ⑤インバウンド向けスポーツツーリズムの強化**
 - ・インバウンド向けのコンテンツの創出・磨き上げやプロモーションの強化
 - ・インバウンド向けのガイド養成・プロモーション強化に向けた講座の開催
 - ⑥スポーツに関する連携協定による取組の推進**
 - ・学生による体験活動の実施（大阪体育大学）
 - ・ダンスを活用した取組の推進（株式会社PERF）
 - ・スポーツ医科学面からの選手サポート研究（高知リハビリテーション専門職大学）
 - ・子どもの野球教室や選手等との交流イベントの開催等（阪神タイガース株式会社）
 - ・トップチームの合宿誘致（パナソニックスポーツ株式会社）
- ・「こうちスポーツNAVI」、「スボるKOCHI」による情報発信の強化
・スポーツ科学センターにおけるデジタル技術の活用

今後の強化に向けた課題

【課題①】

子どもや障害者がスポーツを「始める」「続ける」ことをサポートできる**地域の協力者（指導者やスポーツボランティア等）**のさらなる掘り起こしが必要

【課題②】

- ・**全ての地域における障害者のスポーツ機会の拡大**や**障害者の目標となる大会の拡充が必要**
- ・障害者の**競技スポーツ活動を支援する体制が十分でない**

【課題③】

有望な**アスリートや指導者を県内企業等へ受け入れる仕組みの効果的な運用及び受け入れの拡大**

【課題④】

強化選手以外の競技者や障害のある競技者など、多様な競技者に対してスポーツ医科学サポートを提供できるようにすることが必要